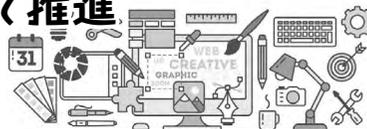


構想の背景を知って安心、納得して推進

G I G Aスクールを 乗りこなす ③



GIGAスクール構想、順調ですか？

碓井梨恵

GIGAスクール構想推進委員会
利用促進部会長

【監修】一般社団法人ICT CONNECT21

GIGAスクール構想推進委員会 情報発信部会

運営中のGIGAスクール構想の情報集積サイト「GIGA HUB WEB」

URL : <https://giga.ictconnect21.jp/> (GIGAスクール情報で検索)

G I G Aスクール構想の本質

はじめまして、利用促進部会長の碓井梨恵です。いきなりですが、皆さまに質問です。G I G Aスクール構想では、どのような教育を実現させるためにICT端末を児童・生徒に配付し校内ネットワークを整備しているのでしょうか？

2019年12月、G I G Aスクール構想が国の政策として世に出た際の萩生田文科科学大臣メッセージには「ICT環境の整備は手段であり目的ではない」「子供たちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していくことが必要」との記載があります。

全世界が同時に初めてを経験した正解が分からないなかで手探り状態の新型コロナウイルスを代表に、子どもたちは予測困難な時代の課題を解決しながら生きていかなければなりません。テクノロジーの進化によっていろいろなものの変化のスピードが速くなっています。テクノロジーの活用と切っても切り離せない時代においては、テクノロジーを活用し、収集した情報をもとに自分の頭で考え、他者と協力しながら課題を解決していくことが求められています。そうしたなか、これま

での教育の方法を変化させていく必要があることから、国の政策として、児童・生徒1人1台にICT端末を配付し、学べる環境整備が行われたのではないのでしょうか。

皆さまの学校、自治体では、端末を使うことが目的化^{※1}してはいないのでしょうか。子どもたちの教育にかかわる先生方は目的を意識しながら、ICT端末を使う先にある未来を描いているのでしょうか？

ICT活用における課題

学校教育がDX^{※1}化することによって恩恵を受けるのは子どもたちだけではありません。先生も同様に恩恵を感じられるはずです。たとえば、クラウド・バイ・デフォルト(クラウドサービスの利用を第一候補とすること)による紙からの解放によって、情報管理「コスト、印刷、配付等の時間の削減、職員会議準備・運営の効率化が期待できます。また机上が紙で埋もれることもなくなり、その他の業務効率も上がったという事例も出てきています。

しかし、教員研修(機会)の少なさから「授業でどう使うのか分からないから使わない」ということもあるようです。ICT活用に慎重な先生方も一定数いらつしやると思いますが、テクノロジーの恩恵にあやかるためには「やってみる」ことが第一歩です。児童・生徒のほう得意なこともあるかもしれませ

※1 デジタルトランスフォーメーション。ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でもよりよい方向に変化させるという概念のこと。

ん。その場合、児童・生徒の活躍の場にもなりませんので、分からないことは恥ずかしがらずに聞くことができる。心理的安全性が担保された教室運営をご自身で実践し、児童・生徒と一緒に学んでいただきたいと思います。

他方、教員側が研修を求めているにもかかわらず、働き方改革によってICTに関する研修が実施されない自治体も出てきているようです。最低限、教員が政策の意図やICTのよさを理解しなければ、日常における効果的な利活用にはつながりませんし、子どもたちはテクノロジによる恩恵を受けられませんが、端末とネットワークを整備して終わりではなく、先生方が授業でいかに活用していくか、というフェーズがGIGAスクール構想の本番ですので、全国の自治体で研修等教員サポートが行われることを期待しています。

GIGAスクール構想後の教員の役割の変化

教員は英語でTeacherと訳されます。これまでの日本の学校制度のなかでも教員はティーチングの役割を担ってきた部分が大半であったと感じます。私は数年前まで、実技系科目の教員として教壇に立っておりまして。当時、1人1台の端末もネットワーク環境もなく、スマートフォンも持ち込み禁止の学校であったため、授業では生徒に私自身が模範を示す、方法を伝授するなど、ティーチングし

ていくことが多かったように思います。

しかし、1人1台端末の時代、テクノロジーを活用すれば、子どもたちにとって教員は唯一の知識の伝達者ではなくなり、ティーチング機能は代替ができるわけです。疑問に思うことを疑問に思ったタイミングで必要な情報にアクセスし探求することも可能ですし、学習データを分析することによって個別最適の問題をレコメンドされるドリルも登場しています。では、GIGAスクール構想後の教員の役割はどう変化するのでしょうか？

私は、子どもたちの意欲を刺激するコーチング的なコミュニケーションや学びの場をファシリテートしていくこと、学びをデザインしていく役割が大きな比重を占めていくと考えています。学びの質に直接的に寄与できるのは教員です。外部環境の変化に応じて、子どもたちに求められる資質・能力が変化するということは、教員も同様に変化し続けていく必要があるのではないのでしょうか？教員がすべての面において完璧である必要はなく、一緒に学んでいく姿を見せること、間違ってもいいんだ、という姿を示すことこそが、予測困難な未来を生きる子どもたちにとって一番の学びになるように感じます。

利用促進部会の役割

われわれ利用促進部会は現在三つのサブ部

会で活動しています。学びたいのに学ぶ機会がないという先生方も「GIGA HUB WEB」の研修コンテンツにアクセスすれば必要な情報が得られ、自分のペースで学んでいけるようになります。それに加えて、研修サブ部会では、GIGAの波をうまく乗りこなすための研修の機会をご提供するほか、保護者理解を促すための保護者向け勉強会を開催しています。宣言書作成サブ部会では、EdTech製品を安心して使っていたりするための業界団体のルールづくりを行って環境整備を進めています。遠隔教育サブ部会では、オンライン授業に焦点を当てて、オンライン授業を進めるうえで、のナレッジ普及や制度面での課題の洗い出し等を行っています。

ICT CONNECT 21メールマガジンや研修サブ部会のFacebook^{※3}にご登録いただけますと、研修コンテンツの情報を確認いただけます。ぜひご活用ください。

※2 GIGA HUB WEB研修



※3 Facebookページ

